

・鳥取市の現況

平成 16 年 11 月 1 日に 1 市 6 町 2 村が合併し、現在の鳥取市となった。現況分析にあたっては、現・鳥取市の範囲を対象にしたが、合併後間もないこともあり、合併前の鳥取市の統計に依拠せざるを得ない面も多くあった。本文で「鳥取市」という場合は「合併後の鳥取市」を指し、合併前を「合併前の鳥取市」とした。以下挙げる数値指標は、特に記載のないものは合併前の鳥取市の統計に依拠したものであり、合併前の各町村の統計を合算したものについてはその旨を明記した。

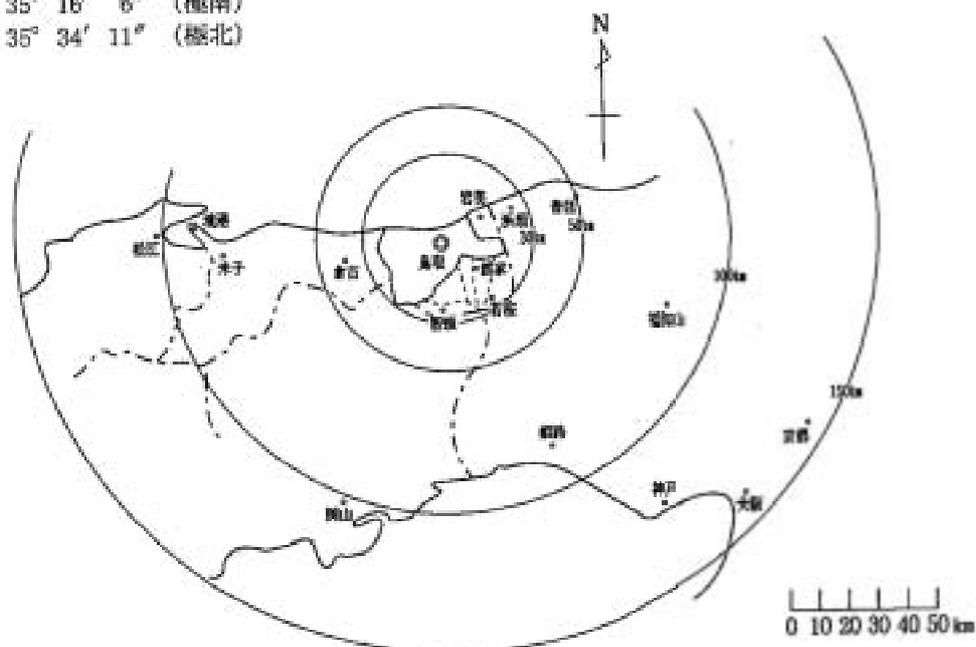
1) 自然条件

位置

- ・ 鳥取市は鳥取県の東北部に位置し、北は日本海に面し、東は岩美町および一部兵庫県、西は東伯郡湯梨浜町および三朝町、南は八頭郡八頭町、智頭町および一部岡山県と接している。
- ・ 東西約 45 km、南北約 30 km の面積 765,66k m² の都市（合併後）であり、これは鳥取県の約 22% を占め、山陰最大都市となっている。そして、県庁所在地として鳥取県東部広域圏の中心をなしている。
- ・ 北側の日本海沿いには、JR 山陰本線、国道 9 号が東西に走り、南北には、JR 因美線、国道 29 号線、国道 53 号線が千代川に沿って通っている。
- ・ 昭和 47 年に山陽新幹線鉄道の開通した岡山、姫路からは 100km、神戸、大阪、京都からは 150km の圏域にある。
- ・ 日本海側には、国天然記念物で国立公園である鳥取砂丘がある。

東経 134° 26' 37" (極東)
 133° 56' 56" (極西)
 北緯 35° 16' 6" (極南)
 35° 34' 11" (極北)

鳥取市の位置図



地 形

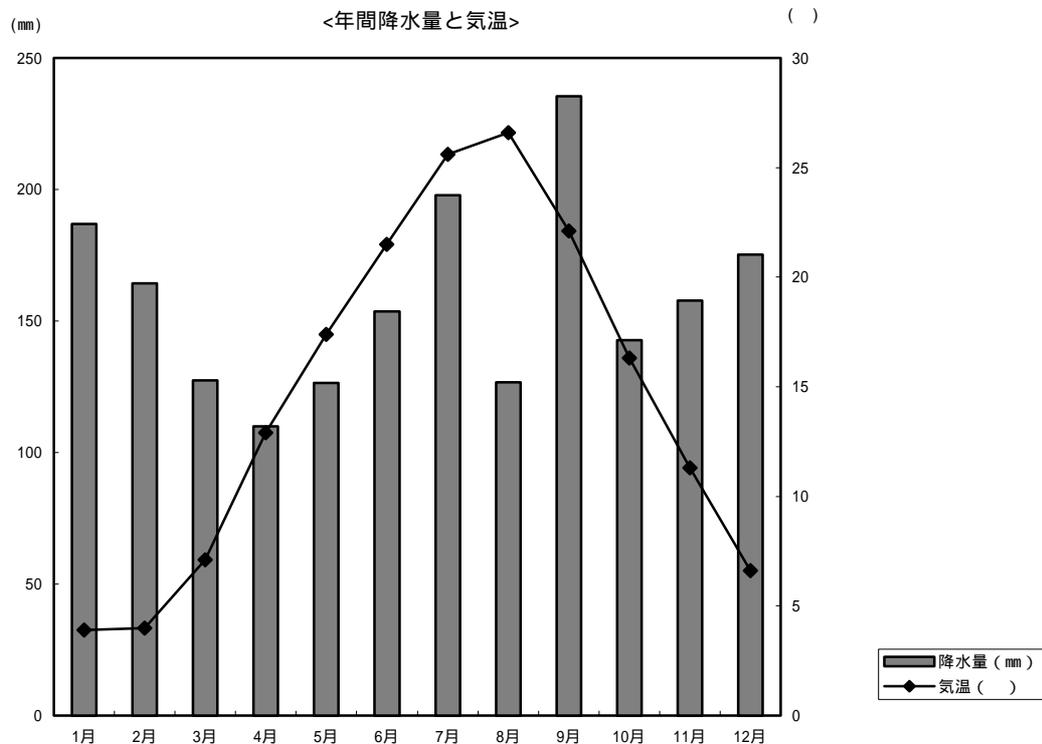
千代川により形成された鳥取平野と、日本海側の日本一の大砂丘で知られる鳥取砂丘、西には面積日本一の湖山池、東にはランドマークとなる久松山（標高 263m）南部には東西に走る中国山地により構成されている。

気 候

- ・ 年間平均気温は 14.9 度、年間降水量は 1,745.0mm（平成 15 年）と、日本海気候に属するものの、四季の移ろいが実感できる比較的温暖な気候となっている。
- ・ 年間を通して、非常に快晴の日が少なく、くもり、雨の多い地域である。

快晴	11 日
くもり	200 日
雨	181 日
雪	44 日

寒候期 = 前年 10 月 ~ 当年 4 月
 くもり = 日平均雲量 8.5 の日数
 雨 = 日降水量 1.0 mm の日数
 雪 = 雪を観測した日数



数値は 1971 ~ 2000 年の平均値

(出典 : 2004 鳥取市勢要覧・鳥取地方気象台)

2) 社会条件

人口

- ・ 合併後の鳥取市の人口は平成 17 年国勢調査によると、人口 201,727 人。世帯数 72,355 世帯。
- ・ 平成 17 年の人口総数は 983 人 (0.5%)、世帯総数は 4,565 世帯 (6.7%) の増加となったが、一世帯当たりの人員は、2.79 人となり、前回と比べて 0.17 人減り、世帯規模が縮小している。
- ・ 昭和 55 年以降の 5 年間隔の人口増加率は、平成 7 年までは全国と概ね同様だったが、平成 7 年から平成 12 年までは全国よりもやや高い増加率となっている。
- ・ 合併した 9 市町村のうち、鳥取市は一貫して全国よりも高い水準で増加しているが、佐治町、青谷町、用瀬町、河原町では減少傾向が続いている。
- ・ 年齢別人口は、今後、0～14 歳人口は減少し、65 歳以上の人口は増加し、更に高齢化が進む見込みである。
- ・ 中心市街地の人口は、年々減少傾向にある上に、高齢化率が 28.0% と高齢化が進んでいる。

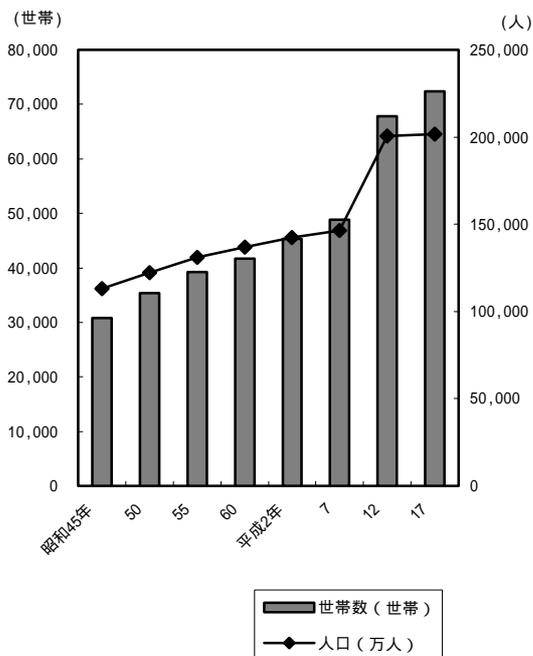
合併前の鳥取市と中心市街地の人口 (平成 15 年・住民基本台帳)

	合併前の鳥取市	中心市街地	市全体に対する割合 (%)
人口 (人)	150,063	15,481	10.3
世帯数 (件)	56,643	6,852	12.1
一世帯あたりの人口平均 (人)	2.6	2.3	
高齢化率 (%)	18.6	28	

高齢化率...全体人口に対する 65 歳以上人口の割合

(出典：鳥取市中心市街地活性化計画，平成 17 年国勢調査)

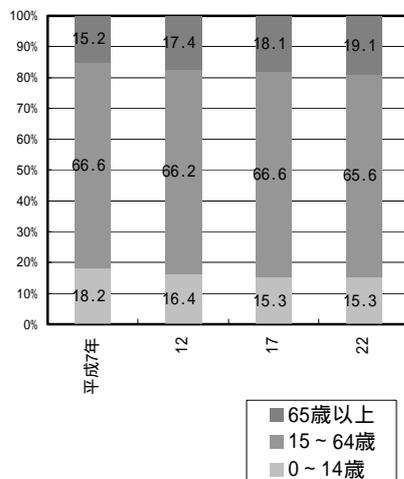
< 人口及び世帯数の推移 (国勢調査) >



平成 12 年は合併町村を含む合計値

(出典：2004 鳥取市勢要覧，平成 17 年国勢調査)

< 年齢3階層別人口の見通し >

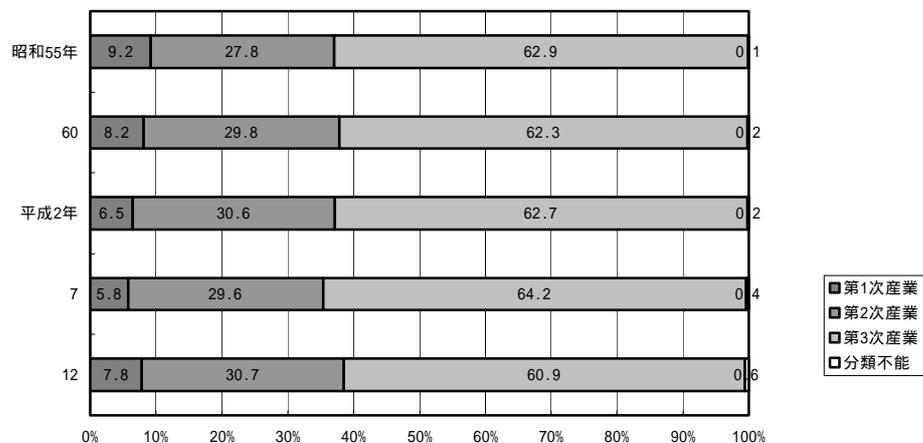


(出典：第 7 次鳥取市総合計画)

産 業

- ・ 合併後の鳥取市全体の産業動態としては、産業人口の推移から第1次産業の減少と、第3次産業の増加傾向が見られる。しかし、全国と比較すると、第1次産業、第2次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低くなっている。
- ・ 第1次産業では佐治町、河原町、福部町における「農業」の割合が、第2次産業では青谷町、用瀬町、気高町における「製造業」の割合が高くなっている。
- ・ 第3次産業では、鹿野町、合併前の鳥取市、国府町の「サービス業」が、合併前の鳥取市の「卸売・小売業・飲食店」の割合も高くなっている。

< 産業別就業者数の推移 > (国勢調査)

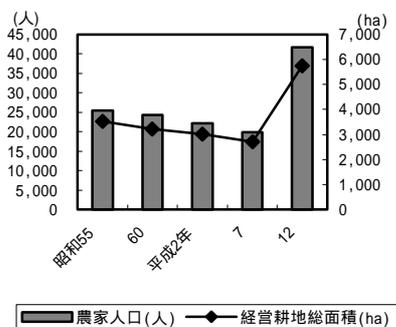


平成12年は合併町村を含む合計値 (出典: 2004 鳥取市勢要覧)

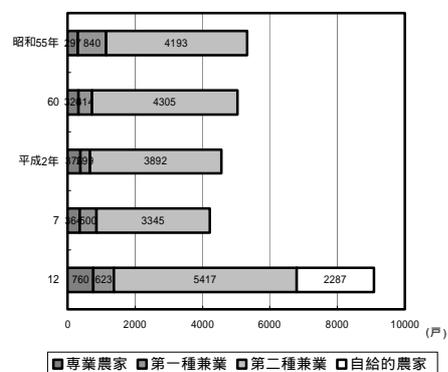
農 業

- ・ 平成10年の粗生産額を見ると、稲・野菜・鶏の順となっている。
- ・ 鳥取は二十世紀梨の生産が盛んであり、また、砂丘でのラッキョウ・長いもの栽培も盛んである。
- ・ 農業人口は専業農家、第一種兼業農家、第二種兼業農家とも、年々減少傾向にある。

< 農家人口と耕地面積の推移 >



< 専業別農家数 >



平成12年調査は、農業就業人口の内訳を「販売農家」と総称。それ以外は「自給的農家」と総称。

(出典: 2004 鳥取市勢要覧 (農林業センサス))

主要作物・果樹の作付・栽培面積及び収穫量

単位：ha・t

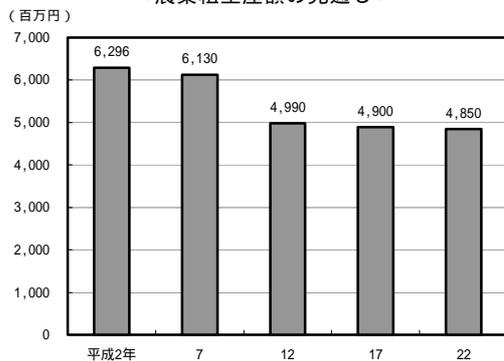
作物・果樹名	平成 11 年		平成 12 年		平成 13 年		平成 14 年	
	作付・栽培面積	収穫量	作付・栽培面積	収穫量	作付・栽培面積	収穫量	作付・栽培面積	収穫量
稲（水・陸稲）	1,520	7,760	1,490	8,030	1,460	7,820	3,588	19,125
いも類	42	589	42	611	39	553	88	1,240
大豆	191	267	177	248	195	294	352	583
すいか	30	525	17	304	13	235	33	604
だいこん	23	611	19	515	18	500	54	1,543
日本なし	76	1,290	75	1,330	61	1,630	392	8,872
かき	30	228	26	233	26	242	99	789
ぶどう	10	76	9	76	9	74	19	148
ねぎ	28	436	28	415	28	411	55	787
ほうれん草	29	408	25	355	22	316	29	431

平成 14 年は、合併町村を含む合計値

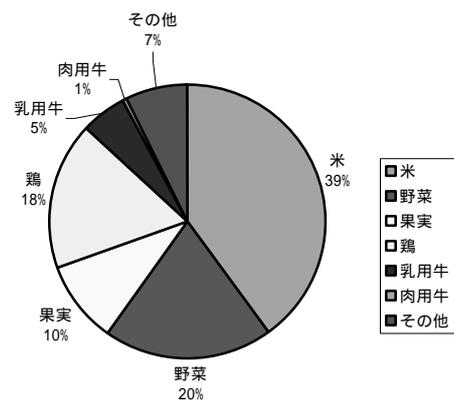
（出典：2004 市勢要覧（鳥取県統計・情報センター「鳥取県農林水産統計年報」））

- ・平成 13 年までは、作付・栽培面積が減少している。
- ・主要作物・果樹の作付・栽培面積は、多い順に、稲（水・陸稲）、日本なし、大豆になっている。
- ・今後の農業粗生産額は、昭和 60 年をピークに、農地面積の減少などに伴い、今後減少していく見通しとなっている。

< 農業粗生産額の見通し >



< 農業粗生産額の構成 >

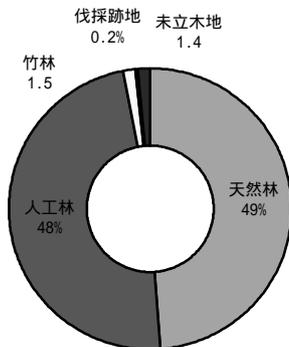


（出典：第 7 次鳥取市総合計画（平成 10 年の農水産統計年報））

林業

- ・ 森林を種別ごとにみると、天然林と人工林が半々の内訳になっている。
- ・ 久松山は市有地、太閤ヶ平は国有地となっている。

<林種別森林面積> 森林面積：54,467ha



<森林資源の現況と見通し> 単位：百 ha

区分	平成 10 年			平成 17 年		
	総数	民有林	国有林	総数	民有林	国有林
総数	133.3	126.9	6.4	132.5	126.1	6.4
人工林	47.2	45.2	2.0	47.7	45.7	2.0
天然林	80.3	76.3	4.0	79.8	75.8	4.0
その他	5.8	5.4	0.4	5.0	4.6	0.4
人口林率(%)	35.4	35.8	31.2	36.0	36.2	31.2

(出典：鳥取県統計情報事務所

「2000年世界農業センサス」)

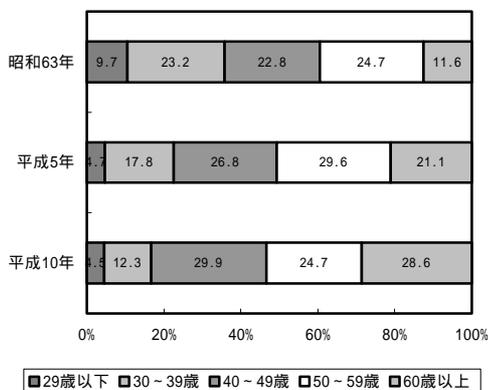
数値は、合併市町村を含む合計値

(出典：第7次鳥取市総合計画)

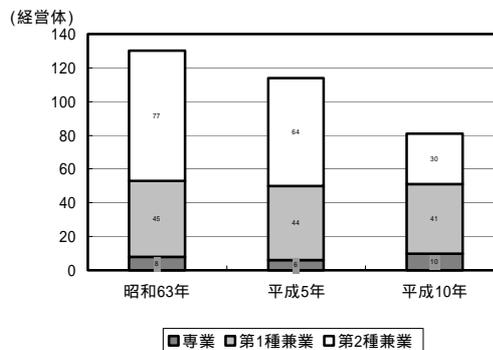
漁業

- ・ 漁業就業者構成比によると、60歳以上の高齢な就業者の割合は増加し、39歳以下の就業者が減少しており、後継者不足が深刻化していくものと考えられる。
- ・ 専業、兼業どちらの経営体数においても、大幅な減少傾向が見られる。
- ・ 漁業種別経営体数を見ると、いか釣りに従事している人が多い。
- ・ 漁獲量を見ると、魚類・かれい類・ずわいがにの順になっている。

<漁業就業者(男性)構成比の推移>

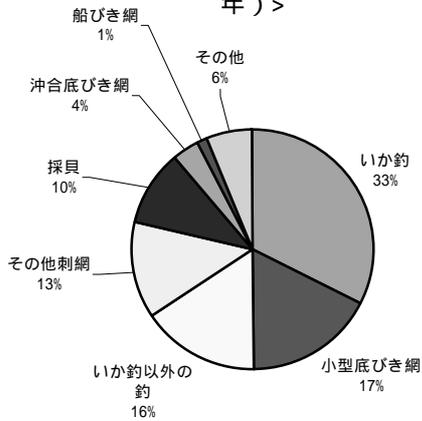


<専業別個人経営体数の推移>

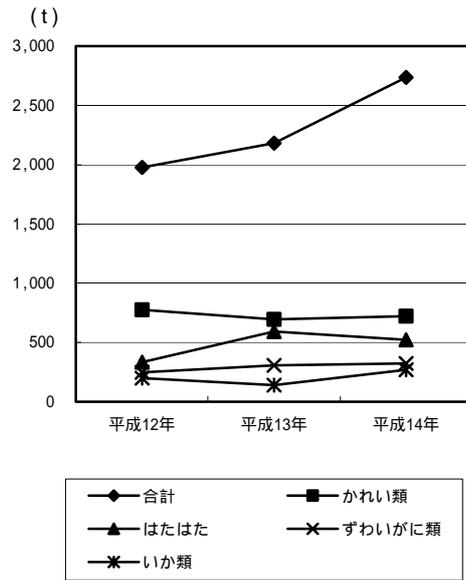


(出典：平成13年 第10次漁業センサス結果報告書)

<主とする漁業種別経営体数（平成14年）>



<魚種別漁獲量>



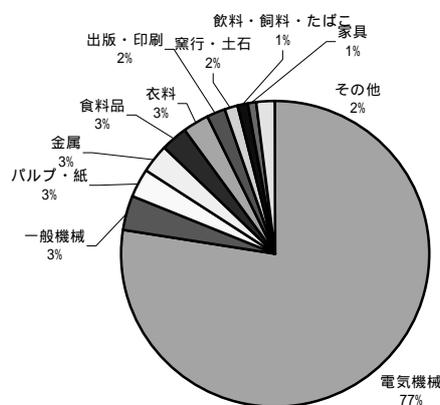
平成14年は、合併市町村を含む合計値

(出典：鳥取統計・情報センター「鳥取農林水産統計年報」)

工業

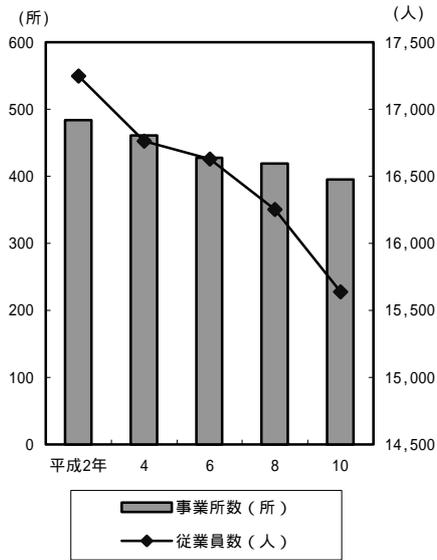
- ・ 製造品出荷額の内訳を見ると、電気機械が出荷額全体の約4分の3を占めている。
- ・ 製造品出荷額は年々増加傾向にある。特に電気機械の出荷額が増加し、逆に繊維・金属は減少傾向にある。引き続き、情報関連産業の進展などにより、電気機械の出荷額は増加していくものと予測される。
- ・ 事業所・従業者数は減少しているが、機械化による人件費削減により、出荷額は伸びている。

<製造品出荷額等の構成>

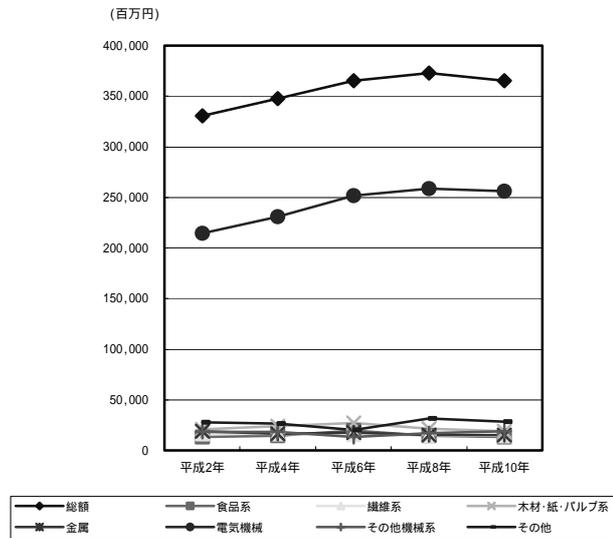


(出典：第7次鳥取市総合計画(平成10年工業統計調査))

<事業者・従業員数の推移>



<製造品出荷額の推移>

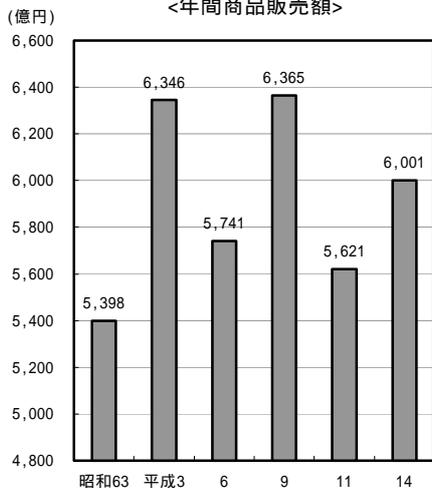


(出典：第7次鳥取市総合計画(平成10年工業統計調査))

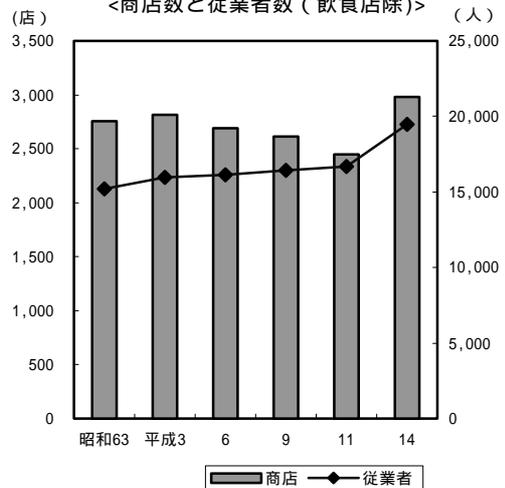
商業

- ・ 商店数は昭和57年をピークに、平成11年まで減少傾向にある。しかし、販売額は増加している。今後も緩やかな伸びで推移していくものと予測される。
- ・ 卸売、小売業、飲食店では従業員が増加しているにもかかわらず、商店数は減少している。中小小売業の廃業、大型量販店の台頭といった状況の影響が見られる。
- ・ 大型量販店の台頭、空家・空地の増加などにより、中心市街地商店街の空洞化が顕著になっている。

<年間商品販売額>



<商店数と従業員数(飲食店除)>



平成14年は、合併市町村を含む合計値

(出典：2004鳥取市勢要覧)

交通

道路交通

- ・鳥取市の道路交通体系は、西は米子、東は京都を結ぶ国道9号線と、鳥取市と智頭、姫路を南北に結ぶ国道29号線、53号線が放射状に伸びる形で構成されている。
- ・鳥取県内で、30分以内で高速道路に接続できる人口は県人口の41%で、これは全国でも最低水準である。中国横断自動車道姫路鳥取線の早期整備が重要課題となっている。

鉄道・バス路線

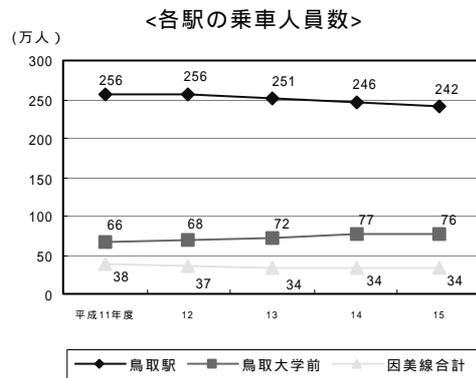
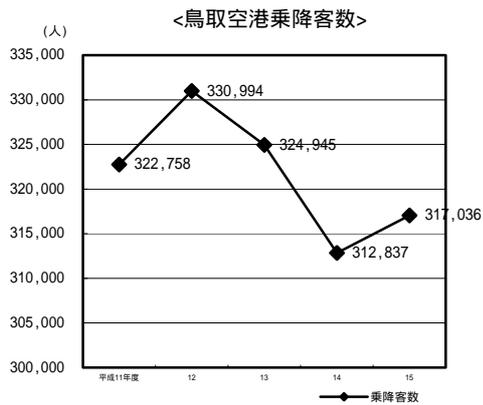
- ・JR鳥取駅は京都から鳥取・米子を結ぶJR山陰本線と、JR因美線、智頭急行智頭線によって、京都・神戸・姫路と、鳥取・倉吉を結ぶ特急スーパーはくとの結節点となっており、県内外からのアクセス拠点となっている。
- ・特急スーパーはくとは1日7往復、鳥取～大阪間を2時間20分程度で運行し、利便性・快適性の向上を図っている。
- ・鳥取駅の乗車人員数は減少傾向にある。
- ・日ノ丸バス、日交バスの鳥取県東部の各方面への一般路線の利用客数は減少傾向にある。
- ・大阪・神戸と鳥取を結ぶ高速バスの利用客数は、年々増加傾向にある。
- ・観光名所を結ぶループ麒麟獅子バスや市内100円バスの整備に努めている。

航空路線

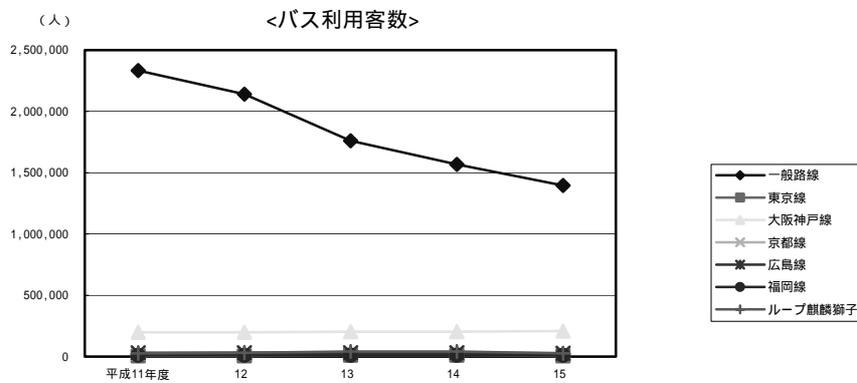
- ・鳥取空港は、鳥取市街地から北西約7km、日本海、千代川、湖山池に囲まれた砂丘地帯に位置する。
- ・現在、東京便、名古屋便が運行しており、近年は韓国便など国際チャーター便も運用され、利用の拡大を図っている。
- ・乗降客数は一時減少したが、年間平均約31万人の利用がある。



鳥取市広域交通



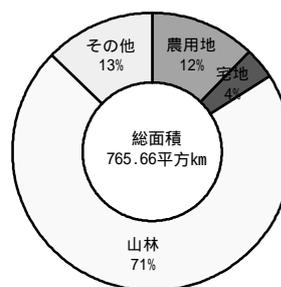
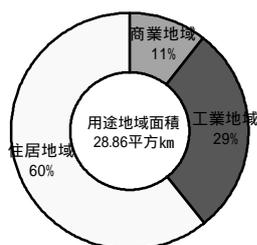
(出典：2004 鳥取市勢要覧 (鳥取空港管理事務所・JR 西日本米子支社))



定期観光バス乗客数には、ループ麒麟獅子・ミニループ麒麟獅子の乗客数を含む (出典：2004 鳥取市勢要覧)

土地利用

- 合併後の鳥取市の総面積は 765.66k m²である。この範囲の地目別の土地利用状況(平成 15 年)は、山林が 546.43 k m²で 71%、農用地 10%、宅地 4%となっている。
- 農用地は気高町、福部町、合併前の鳥取市、河原町、宅地は、合併前の鳥取市、気高町の割合が高く、山林については用瀬町、佐治町、鹿野町において割合が高くなっている。



平成 15 年 4 月 1 日 (数値は合併町村を含む合計値)

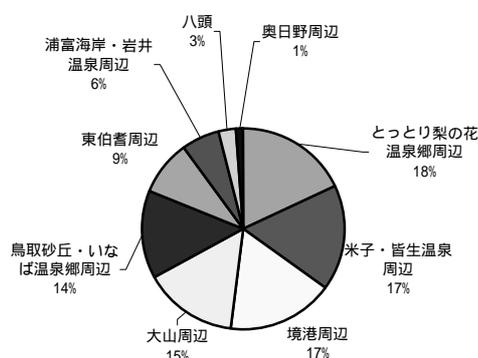
(出典：2004 鳥取市勢要覧・都市計画課)

観 光

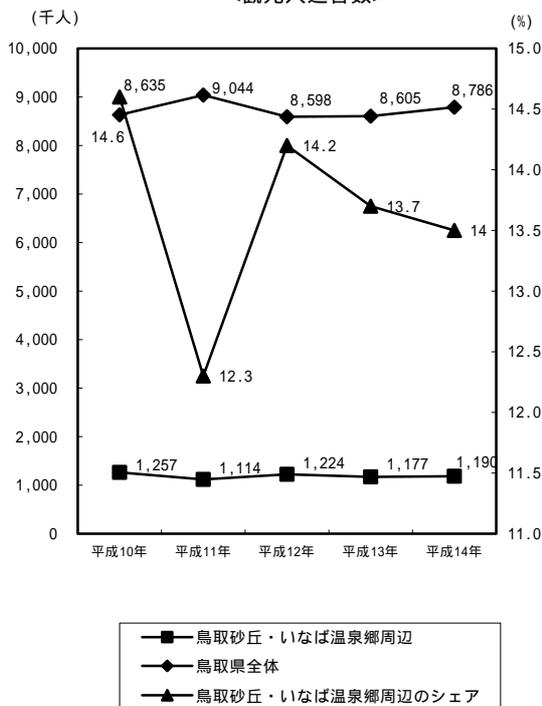
鳥取市の観光入込客の状況

- ・ 鳥取砂丘・いなば温泉郷の観光入込客数の推移を見ると、年度によって差はあるものの、ほぼ横ばいになっている。
- ・ 地域別観光入込客数の割合を見ると、鳥取砂丘・いなば温泉郷は平成 14 年に県全体の観光入込客数の 14%を占めており、観光名所としての知名度が非常に高い。
- ・ 平成 14 年の観光客入込状況を見ると、県外、県内からの客がほぼ半々になっている。県外からの来客のうち、82%が中国・近畿からの客であり、自家用車を移動手段として、日帰りで旅行をするパターンが多いと推測される。

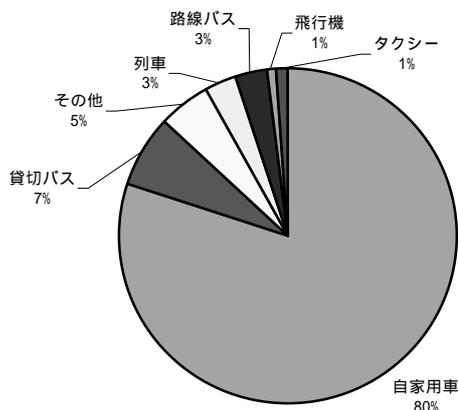
<地域別観光入込客数の割合>



<観光入込客数>



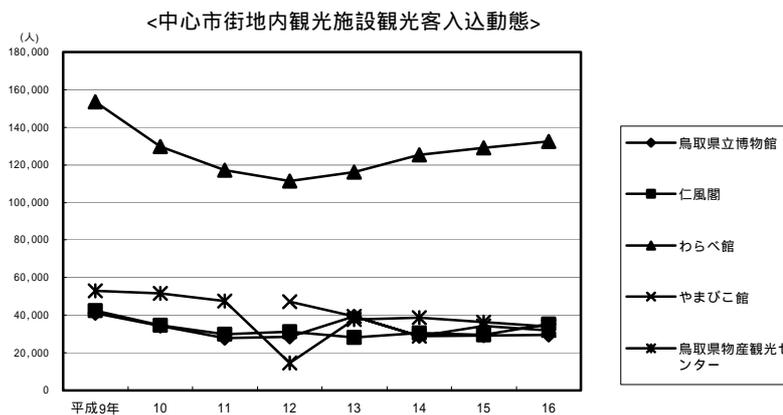
<利用交通機関別観光入込客数の割合>



(出典：中心市街地活性化計画(平成14年鳥取県観光客動態入込調査結果))

中心市街地の観光入込客数の状況

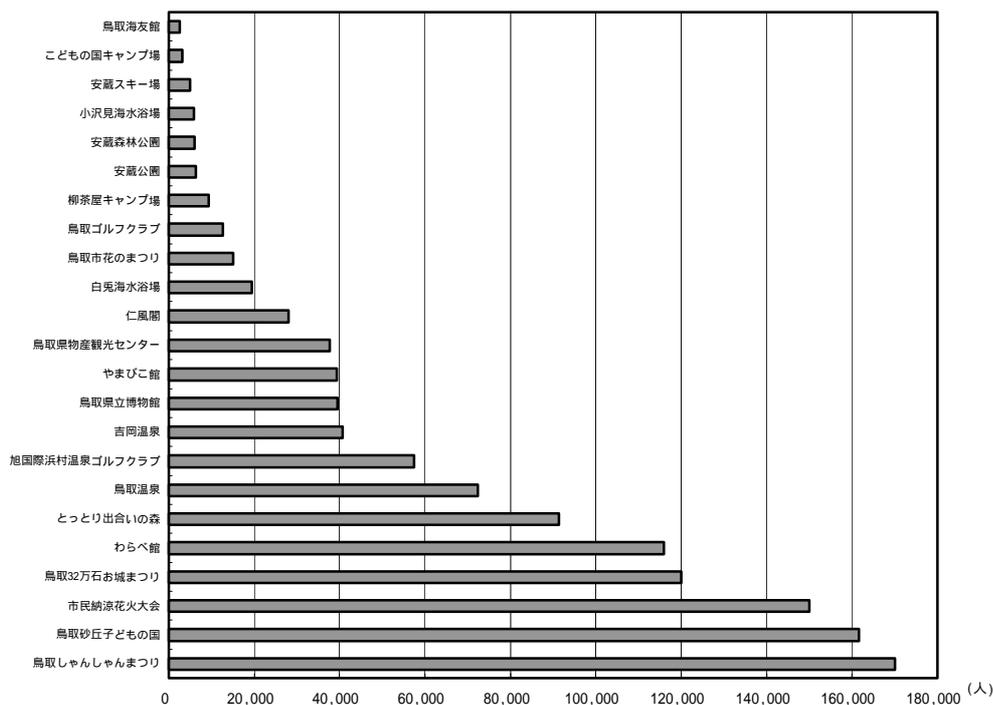
- ・ 史跡鳥取城跡は、鳥取県立博物館、仁風閣と隣接しているが、観光として史跡に立ち寄って行く人は少なく、市民の散歩、ハイキングの利用が多い。
- ・ 久松山・市街地ゾーンは、鳥取城跡、仁風閣、樗谿公園、やまびこ館等、文化財、文化施設が集積しているにも関わらず、これら観光資源の一体的活用がされていない。
- ・ 樗谿公園、太閤ヶ平、久松山にかけて、散策、散歩をする人が、平日でも非常に多い。



(出典：中心市街地活性化基本計画)

- ・ 中心市街地で行われる、しゃんしゃん祭り、花火大会、お城祭りが単発的イベントでありながら、高い集客力をもっており、観光客動員数の高い観光資源である。
- ・ 観光施設としては、鳥取砂丘こどもの国、わらべ館が、子供連れの家族で楽しめる施設として集客力が高くなっている。

<観光施設・イベント利用客数(平成13年)>



(出典：中心市街地活性化基本計画)

都市計画

- ・ 合併前の鳥取市の都市計画区域については、鳥取都市計画でまとめられている。これによると、都市計画区域は西は湖山池西岸付近、東は国府町までとなっている。
- ・ 都市計画区域内では、市街化区域は鳥取駅前の中心市街地を中心に北は千代川河口、西は湖山池東岸あたりまでが、東は面影山、南は若葉台地区までとなっている。

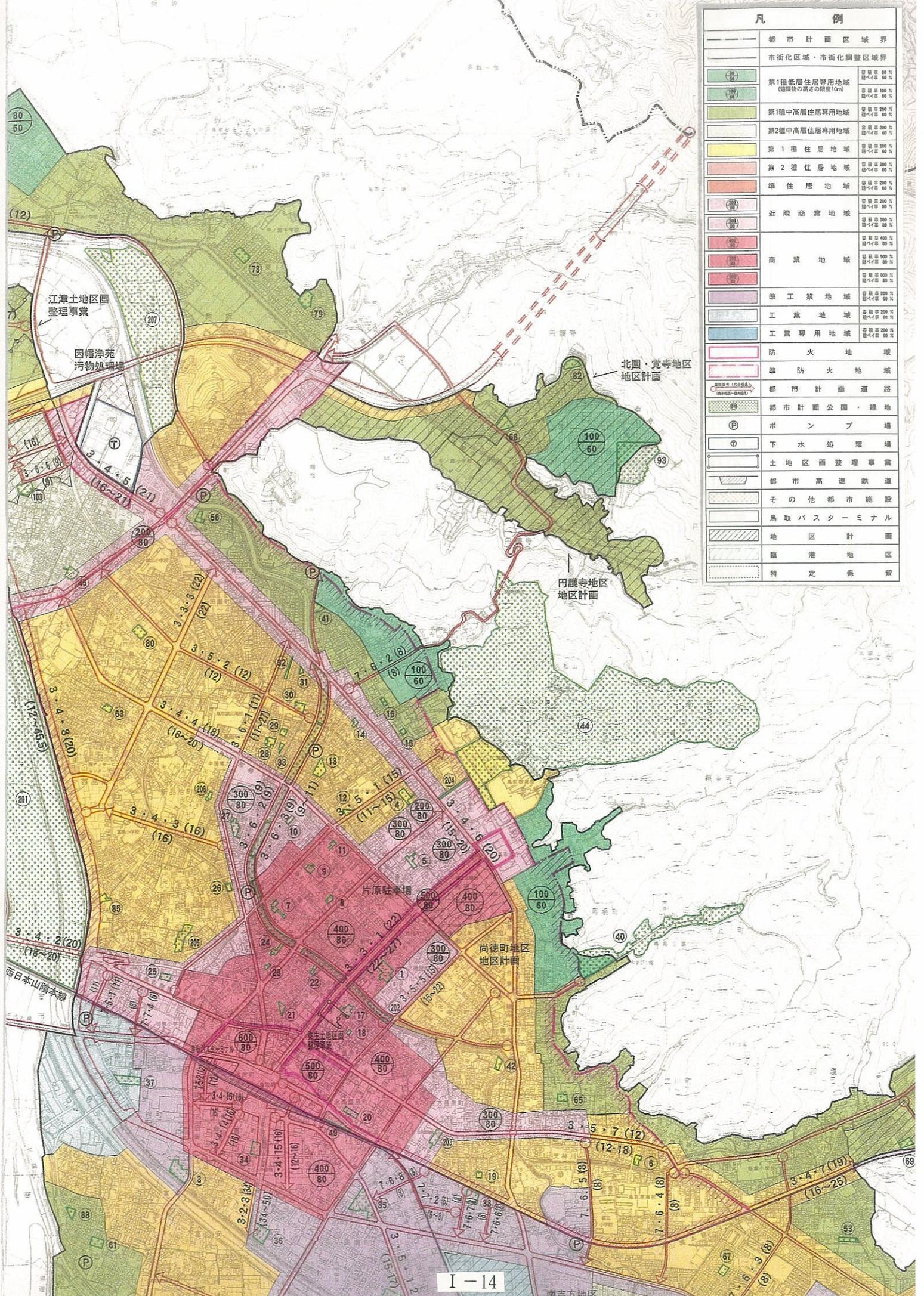
用途地域面積		単位：ha
区分	平成 16 年	
都市計画区域(鳥取都市計画区域)	17,946	
市街化区域	2,886	
第 1 種低層住居専用地域	362	
第 1 種中高層住居専用地域	607	
第 2 種中高層住居専用地域	194	
第 1 種住居地域	571	
第 2 種住居地域	7	
準住居地域	14	
近隣商業地域	166	
商業地域	141	
準工業地域	312	
工業地域	305	
工業専用地域	202	
市街化調整区域	15,060	
定めない都市計画区域	8,861	

平成 17 年 3 月 31 日現在

(出典：鳥取市都市計画の概要)

凡 例

	都市計画区域界	
	市街化区域・市街化調整区域界	
	第1種低層住居専用地域 (建築物の高さの限度10m)	容積率 80% 高さ制限 10m
	第1種中高層住居専用地域	容積率 100% 高さ制限 20m
	第2種中高層住居専用地域	容積率 200% 高さ制限 20m
	第1種住居地域	容積率 200% 高さ制限 20m
	第2種住居地域	容積率 200% 高さ制限 20m
	準住居地域	容積率 200% 高さ制限 20m
	近隣商業地域	容積率 300% 高さ制限 20m
	商業地域	容積率 400% 高さ制限 20m
	準工業地域	容積率 500% 高さ制限 20m
	工業地域	容積率 300% 高さ制限 20m
	工業専用地域	容積率 200% 高さ制限 20m
	防火地域	
	準防火地域	
	都市計画道路	
	都市計画公園・緑地	
	ポンプ場	
	下水処理場	
	土地区画整理事業	
	都市高速鉄道	
	その他都市施設	
	鳥取バスターミナル	
	地区計画	
	臨港地区	
	特定保留	



公園緑地

- ・ 合併後の鳥取市における、平成 17 年の供用済の都市公園は 126 箇所あり、一人当たりの公園面積は 8.8 m²である。
- ・ 鳥取城跡のある久松山は、歴史公園として特殊公園に、隣接する樗谿公園は風致公園として指定されている。
- ・ 鳥取砂丘は、国の天然記念物および、国立公園の特別保護区に指定されており、公園面積の大半を占める。

年度		街区公園	近隣公園	地区公園	総合公園	風致公園	歴史公園	広域公園	都市緑地	計
平成 13	公園数	100	2	2	1	1	1	1	7	115
	面積 (ha)	22.09	2.1	25.4	44.14	4.6	7.37	52	24.65	182.35
平成 14	公園数	103	2	2	1	1	1	1	7	118
	面積 (ha)	22.7	2.1	25.4	44.14	4.6	7.37	52	24.65	182.96
平成 15	公園数	120	2	2	1	1	1	1	7	135
	面積 (ha)	35.46	2.1	25.4	44.14	4.6	7.37	52	24.65	195.72
平成 17	公園数	109	3	4	1	1	1	1	6	126
	面積 (ha)	25.56	3.0	33.66	44.14	4.6	7.37	52.00	13.45	182.88

平成 17 年 3 月 31 日現在、平成 15 年は合併町村を含む合計値

(出典：2004 鳥取市勢要覧・公園街路課)

区分	分類	公園数	面積 (ha)	備考
住区基幹公園	街区公園	95	20.9	真教寺公園ほか
	近隣	2	2.1	湖山公園、賀露上小路公園、鹿野温泉公園
	地区	2	25.4	美保公園、ニュータウン中央公園、河原中央公園、浜村砂丘公園
	総合公園	1	34.9	湖山池公園
都市基幹公園	風致公園	1	4.6	樗谿公園
特殊公園	歴史	1	7.4	久松公園
大規模公園	広域公園	1	52	布勢総合運動公園
都市緑地		7	24.7	千代川、吉方中央、行徳、旧袋川、新品治、久松、重箱
その他		2	399	円護寺公園墓地、砂丘
		112	571	

3) 歴史条件

歴史概要

古代

「鳥取」の地名は、「因幡国邑美郡鳥取郷」(『倭名類聚抄』)という古代郷名が中世、近世、そして近代へと受け継がれてきたものである。

鳥取郷は久松山麓一帯の平野部であったと考えられるが、この地に「鳥取部」という古代部民がいたことが、この郷名の由来といわれている。

中世

室町幕府による守護体制下の因幡国は、「六分の一殿」とも言われた守護大名・山名氏の領国のひとつであり、明徳の乱(1391～1394)以降もその支配下にあった。応仁の乱(1467～1477)以後、「下剋上」の動きが強まると、それまで守護代を派遣して領国を統治していた守護は、領国内に居城を築き、直接領国を統括するようになった。その頃、布施の天神山城(現在の鳥取市湖山町南3丁目のあたり)は、因幡守護山名氏の居城として築かれ、以後、因幡山名氏は「布施屋形」と称した。

天文年間後期(1540年代)になると、因幡山名氏と但馬山名氏との勢力争いの中で、軍事的な拠点の一つとして久松山に城が築かれた。この出城に派遣された武田高信は、この城を増強して自らの拠点とし、布施屋形に反逆した。武田方と布施方は、度々戦闘を繰り返した。

一時因幡以西の山陰を支配していたが、毛利氏によって滅ぼされた尼子氏の遺臣・山中幸盛は、尼子再興の拠点確立のため、因幡守護の山名豊国を援護した。

天正元年(1573) 甕山城(国府町)攻防をめぐる戦いで武田方は敗北し、鳥取城にたてこもったが、降伏・開城した。山名豊国は天神山城にあった三層の天守櫓を久松山頂に移し、鳥取城を本城とした。このとき、天神山城下の町屋も久松山下に移転したという。

天正8年(1580) 羽柴(豊臣)秀吉の鳥取攻めに際して、山名豊国は降伏したが、毛利方を支持する家臣団によって追放された。毛利方は吉川経家を派遣して対抗したが、翌天正9年に敗北し、秀吉配下の宮部継潤が鳥取城主となった。

近世

関ヶ原の合戦後、宮部継潤が改易され、慶長5年(1600) 池田長吉が邑美・法美・八上・巨濃の4郡など6万石を与えられ、鳥取城主となった。この頃、近世城郭としての鳥取城が整備され、城下町もある程度形成されたという。

しかし、直接現代につながる城下町は、元和3年(1617) 姫路城主池田光政が、因幡・伯耆32万石の領主として鳥取城へ転封され、家臣団の居住のために造営したものが基本となっている。光政の入封にあたって、居城所在地の再検討が行われたが、最終的には長吉時代に城郭が整備されていた鳥取が選ばれた。この時代に、袋川の開削をはじめ、家中屋敷割の設定、町人町の造成、寺院の配置が進められ、市街地の原型がほぼ形成された。

寛永9年(1632) 光政と岡山藩主池田光仲の国替え(領地の交換)が行われ、以降明治維新まで因幡・伯耆は鳥取藩池田家の治めるところとなり、鳥取城下はひきつづき発展を重ねていった。

袋川を開削してもとの河川の流路を変え、湿地帯を埋め立てて造営された鳥取城下町は洪水が多く、寛永12年(1635)の「遷封水」をはじめ、寛政7年(1795)の「乙卯水」など、数多くの大洪水に見舞われている。また、フェーン現象に見舞われやすい気象条件によって万治3年(1660)の「出来薬師火事」など十数回に及ぶ大火も起きている。こういった災害にも関わらず、鳥取藩32万石の中心地として繁栄し、江戸時代後期には周辺農村の都市化やスプロール現象といった問題が顕在化するまでに成長していた。鳥取城下町は、政治的な中心地であるばかりでなく、藩経済の中心地だったのである。

このような都市の繁栄を背景に、鳥取藩独自の文化も育まれた。幕府の文教奨励に応じて、諸藩とも学問振興に努めたが、鳥取藩でも7代藩主斉邦の時を中心に、漢学の箕浦世亮、蘭学の稲村三伯、歌学の香川景樹、絵画の土方稲嶺ら数多くの逸材が現れた。地誌・歴史研究においては、安陪恭庵の『因幡誌』、小泉友賢の『因幡民談』、岡嶋正義の『鳥府志』・『因府年表』といった特色ある著作が残され、地域の歴史研究に欠くことのできない貴重な文献となっている。町人と武士層との交流、但馬など周辺地域との文化的交流も広汎にみられ、因幡地域の文化的中心でもあった。

明治

明治4年(1871)廃藩置県により、県名は鳥取県とされ、県庁も鳥取の地に設置された。しかし、明治9年(1876)鳥取県は島根県に併合され、「鳥取県庁」は「島根県支庁」となった。鳥取町(当時)は県庁を失って一時的に衰退した。鳥取県再置運動の効あって、明治14年(1881)鳥取県が再置され、県庁は鳥取に置かれることとなった。明治22年10月1日市制を施行し、以来県都として、また、山陰地方東部の中核都市として、政治・経済・文化の中心となり発展してきた。

大正

県庁再置によって市勢が回復したことに端的に見られるように、市制施行後も、鳥取市は、政治的中心であることが存立基盤であるという城下町的な本質を継承していた。しかし、明治45年に鉄道山陰線が全通すると、次第に近代都市への変革が指向されるようになってゆく。しかし、大正元年、7年、12年に相次いで千代川氾濫による大洪水が起こり、大きな被害が出るなど、その前途は多難であった。

昭和

昭和初期、上下水道の整備や都市計画の策定など、「グレート鳥取」という言葉に見られるような近代都市への脱皮が図られた。大正時代の大洪水を期に、千代川の大改修も行われた。山陰の先進地として、昭和不況の時期にありながら、盛んにインフラストラクチャの整備が行われているのは特筆に値する。反対に、従来の城下町的景観・建築物などは、この時期に急速に失われていった。また、鳥取市出身者が、地域の高い文化水準を背景に、全国水準での活躍をみせたのもこの時期である。

昭和 18 年（1943）M7.3,死者 1,210 人を出す鳥取大地震が起きた。この被害は広汎に及び、城下町由来の歴史的資産だけでなく、昭和初期以来の近代化の遺産にも大きなダメージを与えた。戦時下という特殊な状況のため、防空的都市としての復興がなされたが、物資・資金の不足等もあり、十分なものとする事ができなかった。

震災復興が一段落ついた昭和 27 年（1952）鳥取大火災が起き、旧城下町の大部分が大きな被害を受けた。火災復興に際して、それまでの都市計画で実現しえなかった主要道路の拡幅や、袋川左岸の区画整理、防火建築物帯の創出などが行われ、現在の中心市街地の姿となった。

そののち、昭和の高度経済成長を受け、三洋電機の操業、鳥取空港開港等、鳥取市も発展を遂げていった。昭和 53 年に鳥取駅高架事業が、昭和 55 年には鳥取駅前土地区画整理事業が完成し、鳥取駅周辺の整備を行った。

平成

平成に入り、京都～姫路～鳥取県内を結ぶ智頭線特急スーパーはくと運行により、首都圏、近畿圏へのアクセスが便利になった。そのほか、高速自動車道として中国横断自動車道姫路鳥取線が、早期開通を目指し順次整備が進められている。

平成 11 年 3 月には、産・学と調和のとれた住環境である鳥取新都市（ついのニュータウン）開発整備事業が完了した。

高齢化社会への対応として社会福祉施設等の整備・充実、文化施設として、世界のおもちゃなどを展示した「わらべ館」及び鳥取市歴史博物館「やまびこ館」を整備したほか、教育面においては、平成 13 年 4 月に環境をテーマとした鳥取環境大学が開学した。

人口については、市制施行後順調に増え続け、平成 12 年 10 月の国勢調査により 15 万人都市となり、平成 16 年 11 月 1 日には鳥取東部の 6 町 2 村との市町村合併により、山陰地方で初めて 20 万人を超える都市となった。

産業の振興については、地域産業の振興や企業誘致に積極的に取り組んでおり、電気機械工業を中心とした製造業が盛んであるほか、二十世紀梨や松葉ガ二などの特産品を産する農林水産業の振興にも積極的に取り組んでいる。

まちづくりの目標である「人が輝き まちがきらめく 快適・環境都市 鳥取」、山陰の発展をリードする中核都市の実現に向かってさらなる発展を目指している。

歴史年表

西暦	年号	できごと
		「鳥取部」と呼ばれる人々が住む（新修鳥取市史による）
		因幡国荘園・公領体制のもと集落が点在（新修鳥取市史による）
1545	天文 14 年	この頃久松山に支城が築かれる
1573	天正元年	山名豊国 天神山城より鳥取城に移る。
1581	天正 9 年	吉川経家の籠城する鳥取城 羽柴秀吉により落城
1600	慶長 5 年	池田長吉、鳥取城主となる
1617	元和 3 年	池田光政、姫路より移封。因幡・伯耆 32 万石を領地とする。
1618	元和 4 年	因幡・伯耆国の検地が実施される
1619	元和 5 年	鳥取城下町の拡張工事がはじまる
1632	寛永 9 年	池田光仲、岡山より光政と交替で入封。（鳥取池田家初代）
1633	寛永 10 年	因幡国・伯耆国の検地が実施される
1648	慶安 2 年	鳥取東照宮の造営がはじまる
1676	延宝 4 年	藩札を初めて発行する
1698	元禄 11 年	領内全域に「請免制」（年貢を定免とし、大庄屋に収納を請け負わせる制度）を実施
1730	享保 15 年	他国商人の鳥取城下町への入込を禁ずる
1731	享保 16 年	廻米用の大船の建造を領内の船持に奨励する
1739	元文 4 年	元文一揆がはじまり、全藩一揆となる
1748	寛延 1 年	鳥取城下に米相場役所開設が許される
1758	宝暦 8 年	筆頭庄屋の設置など、農政改革が行われる
1763	宝暦 13 年	銀札引換の滞りにより、銀札騒動が起きる（翌明和 1 年にも起きる）
1792	寛政 4 年	町方に旧里帰農令が出される
1820	文政 3 年	領内の地改（農地の実状と絵図・台帳との確認）を命じるが、翌年中断する
1830	天保 1 年	藩船による廻米の制度が整備される
1839	天保 10 年	領内に地改を命じる
1855	安政 2 年	安政の在方改革が着手される
1867	慶応 3 年	池田慶徳 大政奉還（12 代）（鳥取藩の終焉）
1889	明治 22 年	鳥取市、市制施行（面積 6.61 平方km、人口 27,898 人）
1896	明治 29 年	陸軍第四十連隊本部設置
1912	明治 45 年	山陰鉄道 京都～出雲間（現在の山陰本線）全通
1912	大正元年	千代川氾濫による大洪水
1914	大正 2 年	千代川氾濫による大洪水
1919	大正 7 年	千代川氾濫による大洪水
1921	大正 10 年	鳥取高等農業学校（現在の鳥取大学前身のひとつ）開校
1923	大正 12 年	富桑村合併

西暦	元号	できごと
1924	大正 13 年	千代川改修工事が国の直轄事業として決定
1925	大正 14 年	駅前に温泉湧出
1928	昭和 3 年	新袋川工事に着工。都市計画法適用が鳥取市会で可決され、内務大臣に申請。都市計画法第二条の規定により施行指定の勅令を受け、9月10日より施行。
1930	昭和 5 年	千代川の大改修完成。鳥取市都市計画区域の決定。鳥取市、当初計画より賀露・湖山・松保を除いた計画区域を認可される。 四百五十坪を残して薬研堀の無償交付が内定。埋設工事開始。
1932	昭和 7 年	稲葉村合併。因美線開通。 新千代川通水 旧流路に競馬場設置する案が浮上（実現せず） 千代橋竣工。
1933	昭和 8 年	美保村・中ノ郷村を合併。鳥取市街路網の決定。薬研堀埋設工事竣工
1934	昭和 9 年	新袋川通水
1935	昭和 10 年	鳥取市、砂丘観光施設に 1,000 円を支出。また、市会で温泉の活用が強調される
1936	昭和 11 年	鳥取市の都市計画区域に賀露村が追加される
1937	昭和 12 年	賀露村合併 6ヶ年計画で都市計画の実施に着手
1938	昭和 13 年	鳥取市、市政 50 周年
1943	昭和 18 年	鳥取大震災（M7.3 死者 1,210 人） 震災復興の要領が決定され 18-19 年度に震災復興事業が実施される
1952	昭和 27 年	鳥取大火災（焼失面積 1.6 平方km、被災者 20,415 人、焼失家屋 5,228 戸） 火災復興計画が立案される 耐火建築促進法が制定され、鳥取市がその適用を全国に先駆けて受ける。
1953	昭和 28 年	15ヶ村合併により市の行政基盤固まる（面積 45.12 平方kmから 219.44 平方kmへ、人口 6 万 3 千人から 9 万 9 千人へ）
1955	昭和 30 年	鳥取砂丘、天然記念物に指定
1958	昭和 33 年	鳥取砂丘、国立公園に指定
1964	昭和 39 年	現市庁舎完成
1966	昭和 41 年	鳥取大学 湖山地内に統合移転
1966	昭和 41 年	鳥取三洋電機一部操業開始
1967	昭和 42 年	鳥取空港完成
1978	昭和 53 年	鳥取駅高架化完成
1985	昭和 60 年	第 40 回国民体育大会（わかとり国体）開催。鳥取南バイパス、駅南広場完成。
1988	昭和 63 年	人工 14 万人突破

西暦	元号	できごと
1989	平成元年	市制施行 100 年、' 89 鳥取世界おもちゃ博覧会開催
1990	平成 2 年	鳥取港全面供用開始
1994	平成 6 年	智頭線開通 特急スーパーはくと運行(12月)
1995	平成 7 年	市立病院の新築移転,鳥取世界おもちゃ館開館、岩国市と姉妹都市提携(10月13日)
1996	平成 8 年	「日本の渚・百選」に白兔海岸・鳥取砂丘が選定(7月)
1997	平成 9 年	「学習・交流センター鳥取」が完成(4月)
1998	平成 10 年	観光ループバス「ループ麒麟獅子」を運行(7月)
1999	平成 11 年	鳥取新都市(ついのニュータウン)開発整備事業完了 議会を含めた情報公開制度の実施(10月)
2000	平成 12 年	人口 15 万都市に成長(平成 12 年国勢調査・総務庁発表)
2001	平成 13 年	鳥取環境大学開学
2002	平成 14 年	国民文化祭・とっとり 2002 開催(10月~11月) 男女共同参画センター「輝カガヤ(き)なんせ鳥取」オープン(10月6日)
2003	平成 15 年	個人情報保護制度スタート(4月1日) 市民活動推進センター「アクティブとっとり」オープン(7月13日)
2004	平成 16 年	国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町との市町村合併により人口 20 万人を超える新「鳥取市」が誕生(11月1日)

「鳥取市第 7 次総合計画」をもとに加筆調整

主要文化財

□国指定文化財

指定種別	名称	所在地
史跡	鳥取城跡附太閤ヶ平	東町、栗谷町、百谷、円護寺
史跡	布勢古墳	布勢
史跡	梶山古墳	国府町岡益
史跡	栃本麿寺跡	国府町栃本
史跡	因幡国庁跡	国府町中郷
史跡	伊福吉部徳足比売墓跡	国府町宮下
史跡	鳥取藩主池田家墓所	国府町宮下、奥谷
名勝	観音院庭園	上町
天然記念物	キマダラルリツバメチョウ生息地	長田神社、興禪寺、樗谿公園
天然記念物	ハマナス自生南限地帯	白兔
天然記念物	倉田八幡宮社叢	馬場
天然記念物	大野見宿禰命神社社叢	徳尾
天然記念物	白兔神社社叢	白兔
天然記念物	松上神社のサカキ樹林	松上
天然記念物	鳥取砂丘	浜坂、福部町湯山
重要文化財	樗谿神社本殿・唐門・拝殿及び幣殿	上町 樗谿神社
重要文化財	仁風閣	東町
重要文化財	福田家住宅	紙子谷

指定種別	名称	所在地
重要文化財	絹本着色普賢十羅刹女像	行徳 常忍寺
重要文化財	梵鐘	寺町 本願寺
重要文化財	子持勾玉	東町 県立博物館
重要文化財	紙本金字法華経巻第二、第四	立川町 大雲院
重要文化財	木造薬師如来及び両脇侍坐像	国府町松尾 学行院
重要文化財	木造吉祥天立像	国府町松尾 学行院
重要文化財	栗谷遺跡出土品	福部町湯山、福部歴史資料館
重要美術品	埴輪鹿 脚部補修／埴輪男子像 残闕	湖山町 鳥取大学
重要美術品	袈裟摺文銅鐸	東町 県立博物館
重要美術品	家屋形弥生式土器 下部欠失	東町 県立博物館
無形民俗文化財	因幡の菖蒲綱引き	気高町宝木
無形民俗文化財	因幡の菖蒲綱引き	気高町水尻
無形民俗文化財	因幡の菖蒲綱引き	青谷町青谷

□県指定文化財

指定種別	名称	所在地
史跡	天神山城跡	湖山町
史跡	坊ヶ塚古墳	広岡
史跡	空山2号墳	香取
史跡	空山10号墳	広岡
史跡	空山15号墳	久末
史跡	空山16号墳	久末
史跡	山ヶ鼻古墳	古海
史跡	鷲山古墳	国府町町屋
史跡	阿古山22号墳	青谷町青谷
名勝	三滝溪	河原町北村
天然記念物	矢矯神社社叢	矢橋
天然記念物	意上奴神社社叢	香取
天然記念物	桂見の「二十世紀」ナシの親木	桂見
天然記念物	扇ノ山の火山弾	東町
天然記念物	ナウマンゾウ牙	東町
天然記念物	高岡神社社叢	国府町高岡
天然記念物	菅野ミズゴケ湿原	国府町菅野
天然記念物	坂谷神社社叢	福部町栗谷

指定種別	名称	所在地
天然記念物	弓河内の大シダレザクラ	河原町弓河内
天然記念物	落河内の大キリシマ	河原町北村
天然記念物	長瀬の大シダレザクラ	河原町長瀬
天然記念物	落河内のカソラ	河原町北村
天然記念物	犬山神社社叢	用瀬町宮原
天然記念物	田岡神社のツバキ樹林	佐治町津無
天然記念物	辰巳峠の植物化石産出層	佐治町枳原
天然記念物	相屋神社社叢	青谷町青谷
有形民俗文化財	馬場八幡人形芝居道具	馬場
有形民俗文化財	宇倍神社御幸祭祭具	国府町宮下
無形民俗文化財	大和佐美命神社獅子舞	上砂見、中砂見
無形民俗文化財	岩坪神社獅子舞	岩坪
無形民俗文化財	越路雨乞踊	越路
無形民俗文化財	栖岸寺の双盤念仏	湖山町 栖岸寺
無形民俗文化財	下味野神社、倉田八幡宮、賀露神社の麒麟獅子舞	下味野、蔵田、賀露町
無形民俗文化財	因幡の傘踊	横枕
無形民俗文化財	円通寺人形芝居	円通寺

□市指定文化財

指定種別	名称	所在地
無形民俗文化財	聖神社の神幸行列	行徳
無形民俗文化財	宇倍神社獅子舞	国府町宮下
無形民俗文化財	因幡の傘踊	国府町高岡、美敷、麻生
無形民俗文化財	用瀬のひな送り	用瀬町
無形民俗文化財	江波の三番叟	用瀬町江波
無形民俗文化財	余戸の雨乞踊	佐治町余戸
無形民俗文化財	細尾の獅子舞	佐治町加茂
無形民俗文化財	口佐治神社の獅子舞	佐治町古市
無形民俗文化財	城山神社祭礼行事	鹿野町鹿野 城山神社
無形民俗文化財	志加奴・城山神社獅子舞	鹿野町鹿野・気高町宿
無形民俗文化財	亀井踊	鹿野町鹿野
無形民俗文化財	百手の神事	気高町姫路 姫路神社
無形民俗文化財	酒津のトンドウ	気高町酒津
無形民俗文化財	日置のはねぞ踊り	青谷町河原
無形民俗文化財		
無形文化財	因州佐治 みつまた紙	佐治町加瀬木・大井・刈地・高山・津無・加茂・春谷・河本
無形文化財	因州青谷 こうぞ紙	青谷町山根・河原

指定種別	名称	所在地
史跡	大熊段一号墳・二号墳	湖山町南4丁目
史跡	橋本古墳	橋本
史跡	石舟古墳	国府町新井
史跡	万葉の歌碑	国府町庁
史跡	姫塚	国府町美敷
史跡	犬塚	国府町法花寺
史跡	糸谷古墳	国府町糸谷
史跡	嶽古墳	河原町曳田
史跡	武田高信の墓	河原町佐貫
史跡	景石城跡	用瀬町用瀬
史跡	東光寺山経塚跡	用瀬町古用瀬
史跡	佐治四郎の史跡	佐治町刈地
史跡	熊野神社遺跡とその付近	佐治町大井
史跡	山内与四郎左衛門の遺跡	佐治町余戸
史跡	経塚の墓	佐治町大井
史跡	大水の庚申塔	佐治町中
史跡	沢見塚古墳	気高町奥沢見
史跡	西山1号墳	気高町下坂本
史跡	宝木1号墳	気高町宝木
史跡	宝木16号墳	気高町宝木

指定種別	名称	所在地	指定所別	名称	所在地
史跡	上光 10 号墳	気高町上光	天然記念物	離水海食洞	浜坂地内
史跡	矢口 1 号墳	気高町下坂本	天然記念物	樗緄神社社叢	上町内
史跡	重高 4 号墳	気高町重高	天然記念物	木原神社夫婦杉	国府町木原
史跡	重高 5 号墳	気高町重高	天然記念物	庁のムクの木	国府町庁
史跡	漆谷横穴 (重高 7 号墳)	気高町重高	天然記念物	岩付のマツ	河原町北村
史跡	殿 15 号墳	気高町殿	天然記念物	三谷神社のシダレザクラ	河原町三谷
史跡	殿 25 号墳	気高町殿	天然記念物	国英神社の大イチョウ	河原町片山
史跡	睦逢 11 号墳	気高町睦逢	天然記念物	鳥居原の褶曲	佐治町余戸
史跡	八東水 7 号墳	気高町八東水	天然記念物	西尾家の大キリシマ	佐治町律無
史跡	両国梶ノ助の墓	気高町宝木	天然記念物	山王谷の大栴	佐治町中
史跡	亀井茲矩公墓所	気高町山宮	天然記念物	霧島のツツジ	気高町下光元
史跡	稲富家墓地	気高町宿	天然記念物	布勢平神社社叢林	気高町殿
史跡	鹿野城跡	鹿野町鹿野	天然記念物	阿弥陀森の大タブノキ	気高町山宮
史跡	奥崎古墳群	青谷町奥崎	天然記念物	清宗院の大シイ	青谷町小畑
史跡	養郷 10 号墳	青谷町養郷	天然記念物	子守神社の大イチョウ	青谷町八葉寺
名勝	興禅寺庭園	栗谷町	天然記念物	子守神社の岩窟	青谷町八葉寺
名勝	宝隆院庭園	東町 2 丁目	有形民俗文化財	嶋人形一式	上魚町
名勝	讀傳寺庭園	鹿野町今市	有形民俗文化財	百歳祝着	栄町 鳥取民芸美術館
天然記念物	御熊神社玄武岩柱状節理	御熊	有形民俗文化財	茅堂	国府町下木原
天然記念物	安藏シヤクナグ群落	安藏	有形民俗文化財	うるしかきの用具	佐治町福園

指定種別	名称	所在地
無形民俗文化財	覚寺さいとりさし	覚寺
無形民俗文化財	手笠おどり	国府町美敷・神垣
無形民俗文化財	万灯	国府町町屋
無形民俗文化財	センス踊り	佐治町刈地
無形民俗文化財	大黒舞おどり	佐治町律無
無形民俗文化財	笹尾神社の当渡し	佐治町加瀬木
無形民俗文化財	佐治谷話（口承文芸）	佐治町福園
無形民俗文化財	亥の子行事	気高町姫路
無形民俗文化財	河内はねそ踊り	鹿野町鹿野
無形民俗文化財	勝部岩力踊り	青谷町勝部
無形民俗文化財	青谷駅前傘踊り	青谷町青谷

4) 上位計画・関連計画

本計画に関わる上位計画・関連計画及び研究調査を把握し、本計画との整合性を図る。

上位計画一覧表

計画名称	策定年月日	策定(計画)主体	計画範囲	目標年度
新市まちづくり計画	平成 16 年 7 月	鳥取県東部 9 市町村 合併協議会	鳥取市	平成 16 ~ 26 年度
第 7 次鳥取市総合計画	平成 13 年 12 月	鳥取市	鳥取市	構想 ~ 平成 22 年 計画 13 ~ 17 年度
第 8 次鳥取市総合計画	策定中	鳥取市	鳥取市	構想 ~ 平成 27 年 計画 18 ~ 22 年度

関連計画一覧表

計画名称	策定年月日	策定(計画)主体	計画範囲	目標年度
鳥取都市計画区域 マスタープラン	平成 15 年度	鳥取県	鳥取県 鳥取市	平成 35 年度
鳥取市中心市街地活性化 基本計画(改訂版)	平成 16 年 3 月	鳥取市	鳥取市 中心市街地	平成 16 ~ 25 年度
史跡 鳥取城跡附太閤ヶ平 保存管理計画策定報告書	昭和 59 年度	鳥取市教育委員会	鳥取城跡	
地域の個性を活かした面整備 による中心市街地の活性化 検討調査 - 市街地における城下町再 生可能性調査 -	平成 17 年 3 月	国土交通省 都市・地域整備局	鳥取市中心 市街地	